

< Topics >

本当に、リップル社の成功はXRPの成功と一致しないのか？

ビットコインブルでモーガンクリークデジタルの共同創設者であるアンソニーポンプリアーノは、「The Pomp Podcast」で「リップル社は世界中の銀行や金融サービスとの関係を築くことに成功したブロックチェーンベースの決済会社として非常に優れている。」としつつ「リップル社の成功は必ずしもXRPの成功と一致しない」と投資対象としてのXRPに懐疑的な見方を示した。BTCが2年後に10万ドルに達すると予想する同氏は2月にも同様の見方を示しておりコメント自体に新味がない。ただ、ここ数か月のXRPの実用面での普及拡大とそれに反する低パフォーマンスを見るとそういう考えも浮かぶのも自然だろう。以前、ご紹介したがODL自体は売りと買いが同時に発生するので、需給に与えるインパクトは中立だ。しかし、XRPを媒介にした送金が普及し、送金業者や企業が送金の都度の両替を避けてXRPを手許に置き始めると需給は大きくひっ迫する。もし、デジタルゴールドであるBTC以外のアルトコインの価値の源泉が、相場の上げ下げでなく、実社会での有用性にあるならば、ビジネス界で最も成功しているXRPの価値が下がる相場が続くことは考えにくい。

(7月2日 CRYPTO NEWS FASH)

Currencycloud、リップルとの提携によりB2Bへの進出を加速

B2Bクロスボーダー決済プラットフォームを提供するCurrencycloudは、リップル社とのパートナーシップを発表した。国際送金APIを提供する同社は今年1月にSBIやVisa、BNP、世銀グループから80百万ドルの資金調達を実施、その時点で85個のAPIを使用して約180カ国間で500億ドル以上が送金を実施した。同社はプレスリリースで今回の提携は中小企業に焦点を当てているとしている。移民労働者の本国送金の次に中小企業の送金需要に焦点を当て始めたリップル社の戦略が表れていると言えよう。

(7月2日 XRPARCADE)

< Weekly Head Line >

7月1日	SBIグループが「XRPで最大のマーケットメーカー」B2C2に資本参加
Cointelegraph	SBIホールディングスは、英B2C2の3,000万ドル相当の株式を取得することで合意した。同社はCointelegraphに対し同社は「XRPで最大のマーケットメーカー」と述べている。
7月4日	リップル社役員が仮想通貨を計画するインドの議員への不満を表明
CRYPTO NEWS FLASH	リップル社役員がインドにおける仮想通貨の禁止はイノベーションを止めていると批判。さらに、仮想通貨を規制するための政策フレームワークの欠如についても不満をもらしている。
7月6日	エクスペディア掲載のホテル、暗号資産決済に対応
COINPOST	バイナンスが出資するTravala.comがEPSとの提携を発表。掲載される70万店舗にXRPを含む暗号資産決済を選択肢として対応したことを発表した。
7月6日	Visaはグローバルなブロックチェーン支払いのためにイーサリアムとリップルの開発者を募集
DECRYPTO	決済大手のVISAがXRP、R3、ETHなどのブロックチェーン・分散型台帳に関わる業務に携わったことがあるエンジニアを募集していることがわかった。
7月7日	リップル社のODL、対象地域さらに拡大へ
CITYA.M.	リップル社のMarcus Treacher氏は、これまでメキシコ、フィリピン、豪州、欧州でODLを確立した。今年APACとヨーロッパ、中東、アフリカにも拡大したいと述べた。

著作権表示@2020 FXcoin 株式会社

本レポートは一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。レポート内のいかなる情報又は意見も、仮想通貨の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではありません。本レポートは予告なしに内容が変更されることがあります。本レポートは著作物であり、著作権法により保護されております。当社の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家へ配布することはできません。